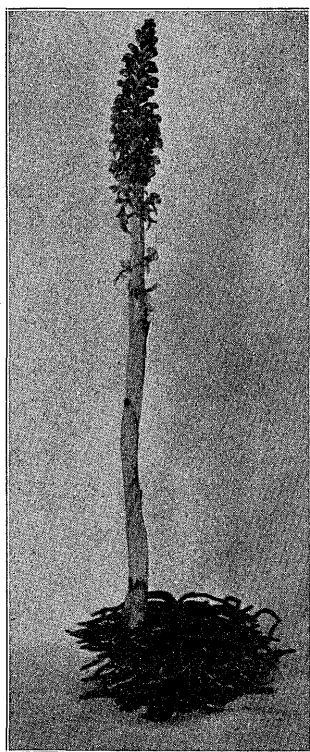


ながばえびも (Potamogeton praelongus Wulf.) ハ北海道ニ知ラレテキマスガ、信州輕井澤ノ小川ノ中ニ自生シ
テキマス

おほとねりに (Fraxinus borealis Nakai) おだせんまい (Osmunda Claytoniana L.) びくやうなぐみ (Elae-



さかねらん

(Neottia Nidus-avis Rich.)

昭和四年五月廿六日信州輕井澤
ニテ採集撮影

うしらはぎ (Lespedeza nikkoensis Nakai) さかねらん (Neottia Nidus-avis Rich.) ハ共ニ信州輕井澤附近ニ産シマス
ほそばかりいはんしょうづる (Clematis subternata Nakai var. tenuifolia Nakai) ハ樺太突岨山ニアリマス

ありますがはせきしやう (Acorus pusillus Sieb.) ハ伊豆淨蓮ノ瀧近クニ自生シテキマス

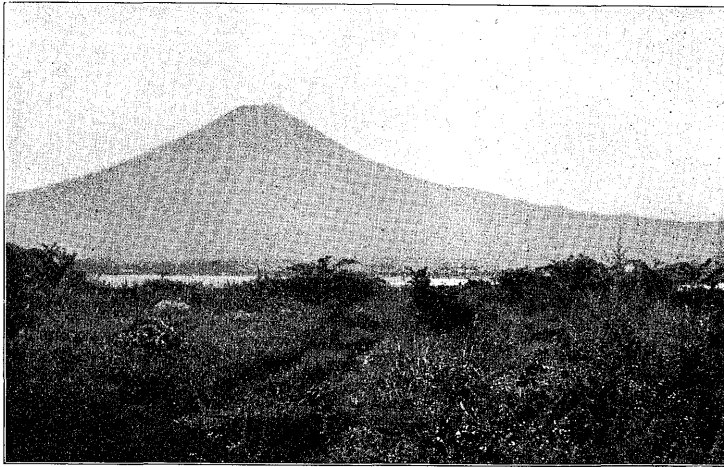
○富嶽ノ北麓河口村ニ遊ブ

神奈川縣立工業學校

大谷

茂

昭和六年八月十日ヨリ十七日ニ至ル一週日ヲ知人ノ招キニ應ジテ山梨縣南都留郡河口村^{カハゲチ}ニ遊ンダ、ソノ昔甲府ヨリノ鎌倉往還三樞驛ノ一ト謂ハレシ難刀^{ナヤナタ}ノ宿、今ハ一寒村トハイヘ風光絶佳ナル河口湖ト富士ノ靈峰ニ接スル岳麓ノ美、生彩アル美術品、コノ靜ナル夏ノ村ニハ山ヲ愛スル人士ノ足ヲ逗ムルニ至ツタ、山ニ住ム人、人



河口村ヨリ富士山ヲ望ム、前面ニ横ニ白ク見ユルハ河口湖（大谷茂撮影）

ト人トニ愛ガアル、山マタ山ト心ヨキ案内ノモトニ行ク行ク語ラ
レシ土言並ニ其ノ利用ヲ書キツヅリシモノヲソノママ紹介シタイ
ト思フ、（一）内ノモノハ普通ノ和名デアル
あかごみし（てうせんごみし——もくれん科）
くろごみし（まつぶさ——もくれん科）

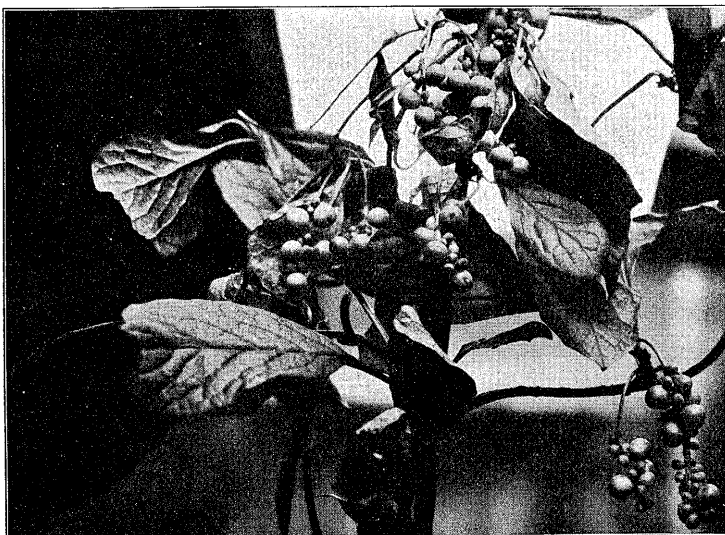
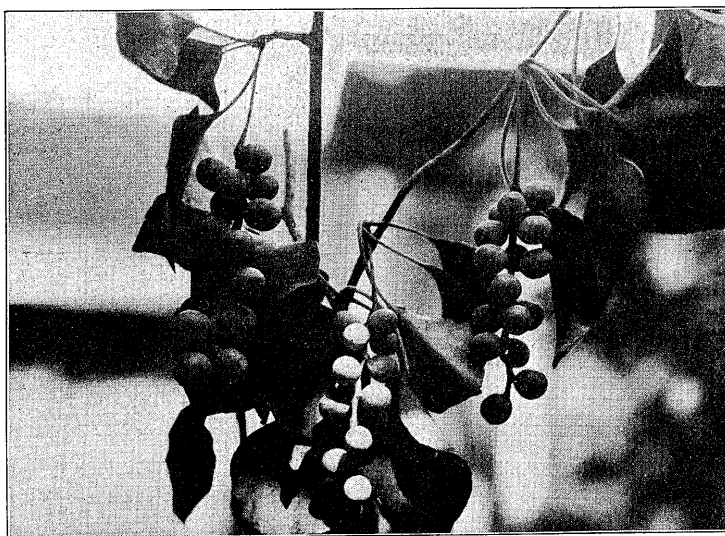
ごみしヲ又ごむしト呼ブ之ヲ（主トシテ果實）鎮咳即チ咳止メニ
ス、試ミニ兩者ノ區別ヲ土人ニ問ヒシニ曰ク、あかごみしハ果
實ハ球形、熟シテ赤色ニナリ果實ノ總小サク且ツ總ノ中ニ必ズ
不發育ノ果實交ハルタメ大小ノ果實穗ヲナス、又コノ蔓ハ細イ
くろごみしハ橢圓形ノ果實デ熟シテ黒紫色果實ノ總大キク且ツ
皆ヨク發育シ不發育ノモノヲ見ズ、又蔓ハ非常ニ太クナリ徑一
寸五分位ニ達スト

利用ニ際シテハあかごみしノ方效力多シ又根モ煎用ス
さいき（えどにう——繖形科）

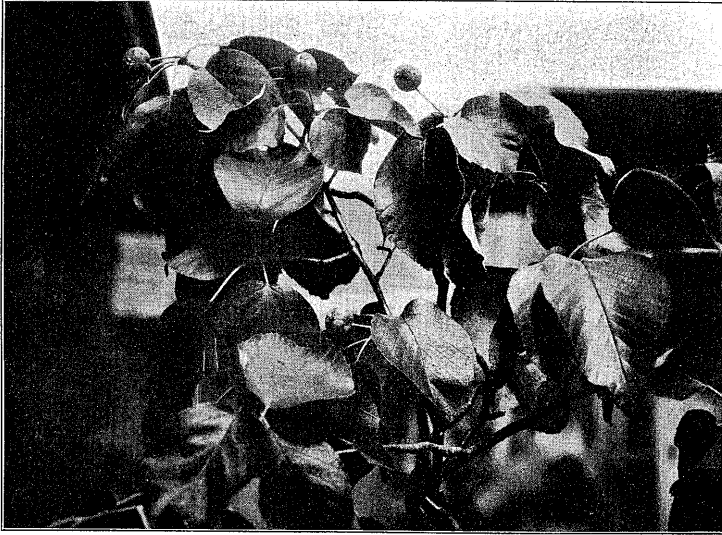
地上ノ部分ヲ肥料ニシ根ハ浴湯ニ入ルレバ身體ヲヨク温メル
（二株位入レル）

わくのて（せんになさう——うまのあしがた科）
小わく（はんしゃうづる——うまのあしがた科）

みみんだれ（たけにぐさ——けし科）

てうせんごみし (*Schizandra chinensis* BAILL.) (大谷茂撮影)まつぶさ (*Schizandra nigra* MAXIM.) (大谷茂撮影)

わくのてト
みみんだれ
ヲ蛆殺シノ
目的ノタメ
便所ニ入レ
ル、わくの
てハ絲ヲ絡
フ具即チ簍
ノ手(絡車)
ニ葉柄ノ出
ル處ガ似テ
居ルタメ、
みみんだれ
ハ褐色汁ヲ
耳ノ聾腺
ヨリ出ル粘
稠液ニタト
ヘ云フモノ
ナラン



やまなし (*Malus Tschonoskii* SCHNEID.) (大谷茂撮影)

おひやうろ (ひがんばんな——ひがんばん科)

コノ球ヲ大根卸シデスツテ餛飩粉ト混ジテ皮膚ニ塗り散
シ藥トナス又解熱ニモ用フ

なんばん (たらがらし——なす科)

だづま (まつむしさう——まつむしさう科)

なべわれ (どくうつぎ——どくうつぎ科)

よすず (がまずみ——すひかづつ科)

ひかげよすず (こばのがまずみ——すひかづら科)

よすずハ食用ニスレドモひかげよすずハ食用ニセズ

はちだめ (はしばみ——かばのき科)

はしばみノコトヲ女はちだめト云ヒつのはしばみヲ男は

ちだめト稱シドチラモ果實ヲ食用ニス

わうれん (たちてんもんどろ——ゆり科)

之ヲ牛馬ニ與ヘルト有毒ナリト云フ

たも (のりうつぎ——ゆきのした科)

はこぼれ (あやめ——あやめ科)

之ヲ嚙ムト齒ガコボレルカラト (有毒ナリ)

にしっこり (ふじいばら——いばら科)

ところ (おにどころ——やまのいも科)

土人詠ンデ曰ク「荒レ畑ノところどころニ出ルところ」

いたんどり (いたどり——たで科)

えんどり (をやまぼくち——さく科)

此ノ葉ヲ端午節句 (コノ地方デハ六月五日) ニ餅ニ入レテ草餅ヲ作ル、六月ニハよもぎ既ニナキ爲之ヲ用フルモノラシイ、よもぎ程色ハ着カヌガ味ハよもぎヨリモ美ナリト

けばいちご又ふさいちご (えびがらいちご——いばら科)

神奈川縣津久井郡青根村デハおぼばらいちごト稱ス

さはぐり (ふさぐくら——やまぐるま科)

しろぶな (いぬぶな——穀斗科)

くろぶな (ぶな——穀斗科)

いはづさ (だんかうばい——くすのき科)

づさ (あぶらちゃん——くすのき科)

かたそぎ (まんさく——まんさく科)

めめぞき (つりばな——にしきざ科)

コノ地方デ春最早クホケル (芽ヲ出ス) モノハ是レナリト

れしてんぶだう (みやままたたび——さるなし科)

果實ガ、レエテン秤 (コノ地方デ稱ス) ノ分銅ニ似テ居ル所ヨリコノ土言アリ、霜ノ降ル頃之ヲ食用ニス種子極メテ小サク其ノ味覺ハ正ニ無花果ヲ食スルガ如シト、熟シテモ帶白綠色ノモノ、若シ未熟ノモノヲ試食センカ舌ハ荒レテ三個位ニシテ舌ヨリ出血スト

富嶽ノ北麓河口村ニ遊ブ

あはぶく(あはぶき——あをかづら科)

わたふち又ほうめぼとけ(つるうめもどき——にしきざ科)

さるすべり(なつつばき——つばき科)

コノ地方ニハ眞ノさるすべリハ無クコノなつつばさが樹皮ヨクさるすべリニ似タルヨリ云フモノナラン

ふぢき(こばのとねりこ——ひひらぎ科)

よぐそざくら(うはみづざくら——いばら科)

樹皮非常ニ臭キタメ土言出ヅ

くそずみ(なはしろぐみ——ぐみ科)

果實少シク長ミガアリたはらずみトモ稱シコノ木ヲ燃ヤセバ其ノ惡臭ヤ十間位離レテモ鼻持チナラスト、果實ハ食用ニス。

かつのき(ぬるで——うるし科)

かつのきハ種々ニ利用サル、所ノモノナリ、雪ニトザサレタ正月ノ村(正月ハ二月行フ)ニハ土人ノ樂ミトシテ色々ノ行事ガ行ハレルガソノ際ヨクコノかつのきが利用サレテキル、破魔弓(正月十七日)ノ弓、又鬼打棒(正月十四日)ト稱シ家ノ門口ニ立ツル棒、コノ爲ニ又ノ名ヲあかざりトモ稱ス、又正月十五日ノ朝ノ粥ヲ食ベル箸ヲ作ル、コノ箸ヲ太箸ト稱シ「フトハシヤ小サク見ユルヨメ(姫)ノ口」トハ一笑、又オゴツカニ神前デ行ハル、御筒粥ノ行事(十四日夜)ニハかつのきを燃ヤシテ粥ヲ炊クナリト

こめごめ(みつばうつぎ——みつばうつぎ科)

大ばらのき(はりざり——うこぎ科)

はまなし(こけもも——しゃくなげ科)

富嶽ノ北麓河口村ニ遊ブ



ず み (Malus Toringo Sieb.) (大谷茂撮影)

ころり (ぎばうし——ゆり科)

コノ葉柄ヲ食用ニス、神奈川縣都筑郡田奈村恩田デハ之ヲごろすけっぱ(ごろすけ)みみづく、ごろすけっぱみみづくノ葉)ト云フ

やまつか又ハだんどばら (やまぼうし——さんしゆ科)

やまつかハやまぐわヨリ起ル、だんどばらハ團子ヲサスヨリ起ル、即チコノ地デハ正月十三日コノ枝ニ團子ヲサス、昔ハ多ク作ルコトヲ競ヒ一俵位ノ團子ヲサシタルナリト

からやずみ (ずみ——いばら科)

果實ハ綠—黃—紅ト順次ニ變ハリ之ヲ食用ニス其ノ味甘シブクシテ味噌ノ様ニネットリトス

やまふさぎ又やぶふさぎ又やまあぢさゐ (たまあぢさゐ——ゆきのした科)

どろやなぎ (やまならし——やなぎ科)

ゑんじ (いぬゑんじゆ——まめ科)

コノ材ヲ大工ノちようなノ柄ニシ又心材ハ黒クテ黒柿ノ如キタメ床柱ニ用フ

あはばな (をみなへし——をみなへし科)

あつけしさうノ新産地ヲ報ズ

十五夜ばな (しをん——さく科)

舊八月ノ十五夜ニハ必ズ開花スルヨリ土言起ル、土人ハ之ヲ好ンデ庭ニ植ウルハ雷ヲヨケル爲ナリト
 コノ他ニ自然物ヲ利用スルコト多キモ此レ等ノ植物ハ土言ト和名ト一致セルニヨリ此處ニハ省ク事トシタ
 此處ニ掲ゲタ植物ノ寫真ハ全部河口村附近ノ山ニテ撮影シタモノデアル

○あつけしさうノ新産地ヲ報ズ

北海道室蘭市武揚小學校

岩 本 秀 信

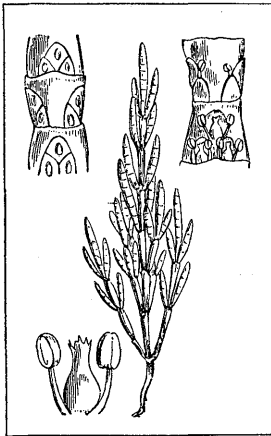
一 緒 言

あつけしさう (*Salicornia herbacea* L.—あかつ科)ノ分布ニ就テハ嘗テ本誌第四卷一號ノ口繪ノ牧野先生ノ記事ヲ讀ンデ第五卷七號ニ北見國サロマ湖ノ新産地ヲ報告シテ以來寡聞ナル私ハ未ダ其レ以外ニ産地ヲ知ラナカ
 ヲタ、然ルニ昭和六年ノ夏圖ラズモ北見デ復新産地ニ逢ヒ、同年秋樺太旅行ノ際同地ニモ産スルコトヲ聞テ是ハ

本誌ニ載セテ戴ク必要ガアラウト拙文ヲ認タメタ次第デアル

二 發見ノ動機

昭和六年一月五日折カラノ猛烈ナ北國ノ吹雪ヲ衝イテ用事ノ
 タメ遙ノ北見網走郡網走町字キナチャシナイ、ト云フ能取湖
 (フトロ湖)畔ノ一部落ニ岩本石松ナル叔父ヲ訪レタ、其ノ時
 ノ談話ニ能取湖畔ニ頗ル奇妙ナル草ガ生エル、葉モナケレバ
 花モ見エナイ、ソウシテ秋ニナルト眞赤ニナル、村人ノ一部
 ハ之ヲ石油草(せきゆさう)ト呼ンデキル、其ノ理由ハ嘗テ



あつけしさう

(*Salicornia herbacea* L.)

(BENTHAM)